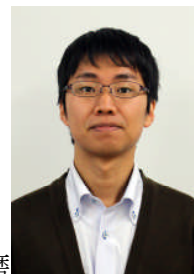


和歌山病院での実習を終えて



中井 一磨

第3内科での病院実習の一環として、国立病院機構和歌山病院にて実習をさせていただきました。和歌山病院は御坊医療圏の救急告示病院、災害支援病院、地域医療支援病院であると同時に、結核病床を有するなど呼吸器疾患を中心とした専門病院として日々診療活動が行われています。

今回の実習では、結核などの症例を通じた病態像や画像診断の学習に加えて、N95 マスクを装着した上での結核ユニットの見学など、実際の臨床現場を体験させていただきました。実習前と比べ、結核に対してより深く実践的な知識を得ることができ、臨床現場においての結核の位置づけについて頭の中で整理する良い機会となりました。近年では教科書的な画像所見は少ないため、今の臨床で注意すべき像についても教えていただきました。

また、胸部レントゲンの正常像についても理解が深まりました。具体的には“境界線”に着目すべきであること、また“境界線”の形成の機序についてです。血管2本と気管支の走行の像の見分けや、照射方向に走行している場合の解釈など、第3内科やこれからの病院実習で役立つ知識が得られました。実習前に持っていた胸部レントゲン像への苦手意識は大きく軽減されたと感じます。今後の実習では、胸部CTの所見と合わせて、担当症例の病態をより詳細に検討したいです。

南方良章院長、駿田直俊副院長をはじめとした和歌山病院のスタッフのみなさんにはとてもお世話になりました。ありがとうございました。